

Play in Nature, Learn from Nature

自然と遊び、自然に学ぶ。

公益財団法人ホシザキグリーン財団

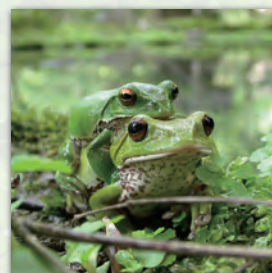
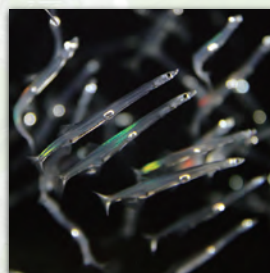
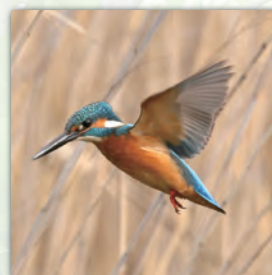
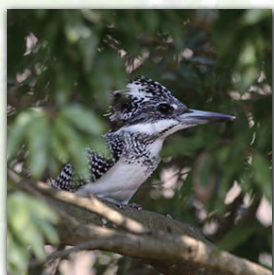


ホシザキグリーン財団は、野生動植物の保護繁殖に関する事業およびこれに資するための関連事業を実施し、以て人と自然の調和した自然環境の保全に寄与することを目的として、1990（平成2）年に設立されました。1996（平成8）年には特定公益増進法人に認可され、設立の目的を達成するためにさまざまな事業に取り組んでまいりました。

そして、2012（平成24）年4月には新たな公益法人制度のもと、島根県内を活動地域とした公益財団法人として再出発いたしました。これまでの活動を継承しつつ、新たな事業の展開を通じて、島根県の豊かな自然環境を次世代に残すために活動してまいります。

公益財団法人ホシザキグリーン財団

理事長 坂本 精志



もくじ

公益財団法人ホシザキグリーン財団	3
事業概要	4
環境整備事業 ふるさと尺の内公園	5
ふるさと尺の内公園	6
環境整備事業 宍道湖グリーンパーク	7
宍道湖グリーンパーク	8
調査研究事業	9
ホシザキ野生生物研究所	10
普及啓発事業	11
施設の運営	12
指定管理施設 島根県立宍道湖自然館ゴビウス	13-14

(本紙を含む7枚組)

連絡先等

財団所在地 〒691-0076 島根県出雲市園町 1664-2

【財団事務局】

所在地：〒691-0076 島根県出雲市園町 1659-5 (島根県立宍道湖自然館ゴビウス内)

電話：0853-63-7111

F A X：0853-63-7112

【ホシザキ野生生物研究所】

所在地：〒691-0076 島根県出雲市園町 1664-2

電話：0853-63-7878

F A X：0853-63-0987

【宍道湖グリーンパーク】

所在地：〒691-0076 島根県出雲市園町 1664-2

電話：0853-63-0787 (開館日の 9:30-17:00)

F A X：0853-63-0797

【ふるさと尺の内公園】

所在地：〒699-1312 雲南市木次町山方 1134-5

お問い合わせ先：ホシザキ野生生物研究所

指定管理施設

【島根県立宍道湖自然館ゴビウス】

所在地：〒691-0076 島根県出雲市園町 1659-5

電話：0853-63-7100 (開館日の 9:30-17:00)

F A X：0853-63-7101

公益財団法人ホシザキグリーン財団

URL： <https://www.green-f.or.jp>

島根県立宍道湖自然館ゴビウス

URL： <https://www.gobius.jp>

公益財団法人ホシザキグリーン財団

ホシザキグリーン財団は、「野生動植物の保護繁殖に関する事業およびこれに資するための関連事業を実施し、以て人と自然の調和した自然環境の保全に寄与すること」を目的として1990（平成2）年に設立されました。

2012（平成24）年4月には公益財団法人に認定され、これまでの活動を継承しつつ、さらに事業を発展させて、島根県の豊かな自然環境を次世代に残すために活動しています。

【目的】 野生動植物の保護繁殖に関する事業を実施し、以て人と自然の調和した自然環境の保全に資すること

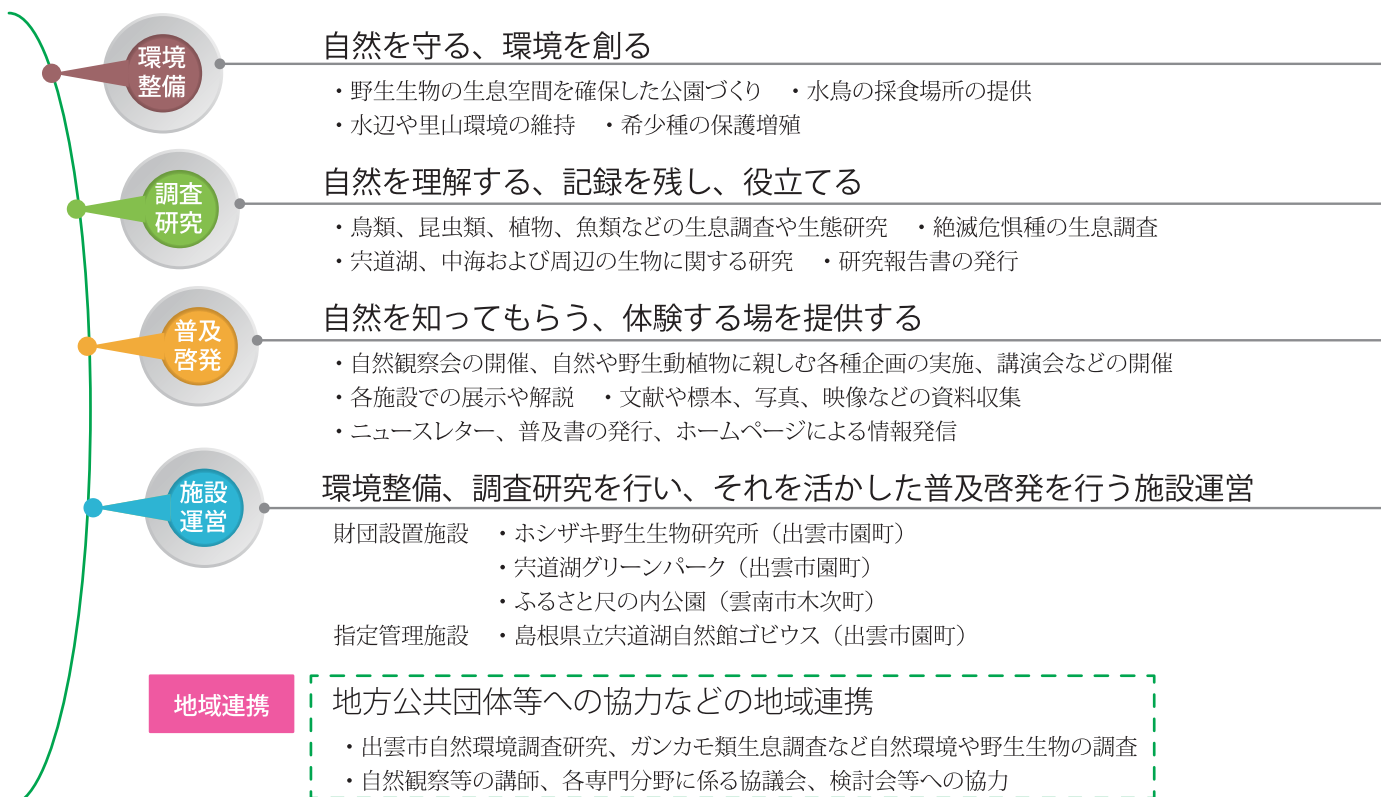
【沿革】 2025（令和7）年10月時点

1990年5月30日… 財団法人ホシザキグリーン財団、設立	2003年4月1日… 宍道湖ネイチャーランド、開園
1994年4月15日… ふるさと尺の内公園、開園	2005年2月8日… しまね景観奨励賞、受賞
1996年4月1日… 特定公益増進法人、認可	2007年2月9日… ホシザキ野生生物研究所、竣工
1996年6月6日… 宍道湖グリーンパーク、開園	2009年1月24日… しまね環境農業大賞「応援部門賞」、受賞
1996年11月20日… 島根県知事より環境保全功労者表彰	2012年4月1日… 公益財団法人に認定
1997年2月19日… しまね景観賞特別賞、受賞	2015年6月10日… 環境大臣より地域環境保全功労者表彰
1997年5月12日… 常陸宮御夫妻、宍道湖グリーンパーク御来園	2017年7月9日… 宍道湖グリーンパーク来館者50万人
1997年10月1日… 重油汚染水鳥調査と保護に対して環境庁長官より感謝状	2019年1月30日… 施設整備に係る寄付に関して島根県知事より感謝状
1998年3月27日… 油汚染水鳥被害調査活動に対してOBIC（油汚染海鳥被害委員会）より感謝状	2019年4月19日… 宍道湖グリーンパーク野鳥観察舎リニューアルオープン
2000年4月29日… 「みどりの日」自然環境功労者環境庁長官表彰、自然ふれあい部門での受賞	2020年3月16日… 施設整備に係る寄付に関して島根県知事より感謝状
2001年4月21日… ホシザキ野生生物研究所、開設	2022年11月22日… 映像コンテンツ寄付に関して島根県知事より感謝状
2001年4月21日… 島根県立宍道湖自然館ゴビウス、開館（管理運営受託）	2025年5月15日… 農業、林業、畜産業、水産業の持続的な発展に寄与する新事業を展開
2002年10月30日… 緑の都市賞「審査委員長奨励賞」、受賞	2026年3月17日… 「宍道湖グリーンパーク」と「ふるさと尺の内公園」が自然共生サイトに認定

【事業について】

I 野生動植物の保護繁殖および生息環境の保全に関する事業

ホシザキグリーン財団は、設立の目的を達成するため、野生動植物の保護繁殖および生息環境の保全に関する事業を実施しています。各事業は相互に関連し補完しあうことでその効果を高めています。



II 農業、林業、畜産業、水産業の持続的な発展に寄与する事業

- 島根県沿岸域の藻場回復に対する支援事業
- 次世代に繋がる持続可能な畜産振興モデル支援事業
- 持続可能な農林業の実現に向けた支援事業
- 森林再生の実現に向けた獣被害対策支援事業

事業概要

ふるさとの自然を継承したいという創設者の思いから1990年に設立されたホシザキグリーン財団では野生動植物の保護繁殖に関する事業を実施し、以て人と自然の調和した自然環境の保全に資することを目的として事業に取り組んでいます。またこれらの事業を連動させることで発展的な展開を目指しています。

環境整備事業



野生動植物の保護・繁殖、多様な生きものが生息できる環境の維持あるいは創出を行っています。人が自然に興味関心を持ち、親しみを感じられる場となるよう地域の特性を活かした環境整備を行い、普及啓発活動の場として活用しています。また整備後もその環境の調査等を行い、環境の維持・発展に努めています。

調査研究事業



島根県内に生息する野生動植物の保護や生息環境を保全するという視点から、鳥類・昆虫類・植物・魚類・水生生物をおもな調査対象として生息状況等の調査研究を行っています。

調査研究で得た知見は、普及啓発の幅を広げるのに役立ち、施設での環境整備の中で効果を図ることで、さらなる発展を検討する材料ともなります。調査研究の成果は「ホシザキグリーン財団研究報告」の発行や一般の方にむけた研究報告会を開催することにより多くの人々と共有できるようにしています。

普及啓発事業



運営している施設では地域の自然特性を活かした整備環境を活用し、調査研究で得た情報や知識をもとに展示や解説を行っています。自然観察会などの自然に親しむことを目的としたイベントの開催や、各施設での観察や体験をサポートできるようなリーフレットやワークシートなどの発行も行っています。またニュースレターやホームページを使っての自然情報の発信など地域の自然の現状と大切さをできるだけ多くの人に伝えられるように事業を展開しています。

施設の運営



自然や野生動植物に親しみを感じ、学ぶことができるようにと施設の運営に取り組んでいます。運営する施設では、より多くの皆様に利用していただけるような普及啓発の場としての運営はもちろん、環境整備を通して野生動植物の保護に貢献する場としての管理にも取り組んでいます。また、調査研究の拠点あるいはフィールドとしても活用し、そうした活動を通して得た知見を広く普及する場となることも施設の目的としています。

農業、林業、畜産業、水産業の持続的な発展に寄与する事業

地域社会の健全な発展には人と自然の調和が望まれます。人と自然の調和には、健全な一次産業の持続が不可欠であり、一次産業が持続するにはその発展が必要と考えられることから、その為の資源保護、事業継続や新事業開発に対する支援、二次的自然環境や景観等の保全や活用への支援を行います。

環境整備事業

自然を守る、環境を創る

ふるさと尺の内公園

ふるさと尺の内公園は、国道54号線と木次拠点工業団地に隣接する峠の一面にあります。野生動植物の生息場所として「ふるさと」の自然を守り、訪れた人が自然に親しむことができる場となることを目指して整備されました。

公園内では在来植物を中心とした植栽を進め、数が少なくなっていると考えられる在来の野生動植物の保護にも貢献し、人工の池や小川も水辺の生きものの生息・繁殖場所としての機能を意識した維持管理をしています。また、公園に隣接する丘陵地も含めた自然環境の保全にも取り組んでいます。一方で、管理棟やあずま屋、園路などといった人が利用する空間も充実させることで、人にも野生動植物にも魅力ある公園をめざしています。



園内の植生

訪れる人にも生きものにも魅力的な空間となるよう、公園周辺をはじめとした県内に自生する多年草を用いた植栽を進めています。外来植物をとり除き、日当たりや木陰などの条件にあった多様な在来植物が見られるようになることで、野に咲く季節の花々を鑑賞でき、花は多様な昆虫の蜜源となります。また、植栽スペースには景観にも配慮した木積みや石積みを組み合わせることで、変化に富んだ景色が生まれ、そこは小動物のすみかにもなっています。



モリアオガエルの池

湧水を水源にした小さな池には、モリアオガエルが産卵に来るようになります。池の縁に生えていたハンノキを産卵場所とするために手入れを行い、幼生の生息場所となるよう池の中にはマコモやミクリなどの水草を植栽しました。また、外来生物のアメリカザリガニの影響を低減するため、進入防止の柵を設置し、捕獲・回収を継続しています。モリアオガエルだけでなく、トノサマガエルやツチガエルも見られます。



峠の池

公園内には、3つの人工の池とそれをつなぐ小川があり、小川はホタルの生息場所となっています。また絶滅危惧種であるオニバスの系統保存を行っている池もあります。



ホタルの小川



オニバスの池



半湿性ビオトープ

窪地の形状を利用したビオトープで、湧水と降水量に応じて水位が変化します。一時的な水域を利用する昆虫や両生類の生息場所となります。



草地・裸地ビオトープ

公園南側にある平坦地を利用したビオトープ。人工の砂地と定期的な草刈りで維持している草地があり、乾燥した環境を好む昆虫などが生息しています。



丘陵地の里山林

公園に隣接する丘陵地では二次林の下草刈りなどの手入れもしており、公園だけでなく尺の内一帯で野生動植物の多様な生息空間となるよう環境整備に取り組んでいます。

【環境省認定 自然共生サイト】 出雲の固有種「イズモサンショウウオ」をはじめ、400種を超える昆虫類や希少な両生類が息づく「里地里山の豊かな生態系」が評価され、2026年3月、環境省より認定を受けました。



人にも野生動植物にも魅力ある公園をめざして



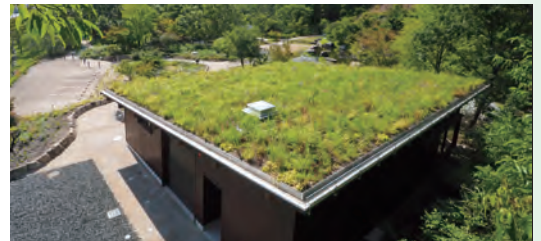
ふるさと尺の内公園

ふるさと尺の内公園から続く丘陵地はかつての里山の面影を残し、野鳥や昆虫をはじめとした生きものが園内と行き来をしています。また、園内には在来植物による植栽が進められ、季節によって様々な花が咲き、実をつけます。

この園内を周回できるメイン園路は、人が利用する空間として歩きやすく整備し、生きものが生息する空間と明確に分けることで人にも野生動植物にも配慮しています。一画にはウッドチップの小径もあり、訪れた人が四季折々の木々や草花をより身近に感じられる場も提供しています。また、こうした環境を活かして、植物や昆虫、水生生物、野鳥などを対象とした自然観察会も開催しています。



【所在地】 島根県雲南市木次町山方 1134-5
【開園日】 1994（平成6）年4月15日
【面積】 約26,800㎡（裸地含む）
【概要】 植樹林・草地、人工小川・池
管理棟（トイレ）、あずま屋、駐車場
【問合せ先】 ホシザキ野生生物研究所



管理棟

公園で開催される自然観察会などのイベントと公園管理の拠点として、レクチャー室や作業スペース、トイレなどがあります。また、管理棟の屋根は在来の多年草を植栽した草屋根になっていて、周囲の景観と調和するだけでなく、昆虫などのすみかにもなり、さらに夏場の室温上昇を抑える効果もあります。



メイン園路



あずま屋



解説板

公園とビオトープの機能をあわせ持つ尺の内公園は、「人が利用する空間」と「生きものが生息する空間」が共存します。歩きやすく舗装されたメイン園路は、周りの植栽スペースと柵や石垣で明確に分けられています。メイン園路のところどころにベンチがあり、休憩場所となるあずま屋もあります。解説板や樹名板も設置しており、自然や動植物を身近に感じながらゆっくり散策することができます。



自然観察会や環境整備と連動したワークショップなどを開催



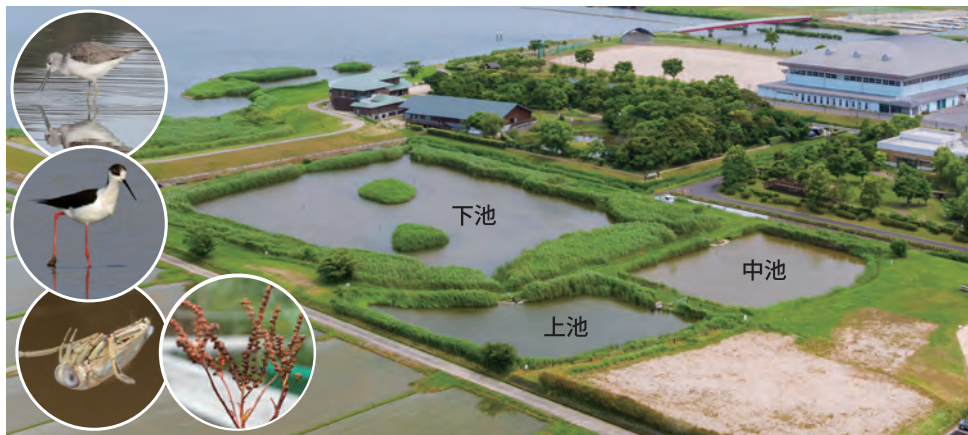
環境整備事業

自然を守る、環境を創る

宍道湖グリーンパーク

宍道湖は隣接する中海とともにラムサール条約に登録された汽水湖です。汽水域ならではの多様な水生生物が生息する豊かな水辺は、多くの恵みをもたらしてくれています。また、宍道湖・中海は西日本最大級の渡り鳥の飛来地であり、マガンやヒシクイ、コハクチョウといった大型水鳥が集団越冬する国内の南限としても知られています。

宍道湖グリーンパークは、この宍道湖の西岸に国が整備した多自然型湖岸堤と一体となった公園として、野生動物が生息するビオトープとしての機能と、訪れた人がこの地域の自然に親しみ理解を深めることができるように整備されました。



ビオトープ池

2003年に特に浅い水辺の生きものが生息する場所として整備した「ビオトープ池」は、さらに機能を高めるため、2014年に広さや深さが異なる3つの池に分けられました。一番広い下池の水面はヨシの群落で囲まれ、中央に2つの島もあるなど、水中から陸上まで連続する環境要素を持たせています。また、最も浅い中池には水面にも自然に草が生え、それがカモ類のエサになったり、小動物の隠れ場になったりしています。



ビオトープ池南側の木製の壁

ビオトープ池南側に木製の壁を設置、通路にはゲートを設け人の立ち入りを制限しました。木製の壁には、観察窓を設け、鳥を驚かすことなく観察することもできます。



野鳥観察舎の2階からビオトープ池や北側の水田の野鳥を観察することもできます。



白鳥の採食場

北側の水田(約 10ha)では、地元地権者の協力を得て、冬のあいだ水を溜めてコハクチョウなどが採食しやすい環境にする取り組みを継続しています。



園内の林

出雲地方にみられる樹木を中心に植栽されているほか、野鳥が好む実のなる木などを植えています。



バードサンクチュアリ

園内の一面を葦藪や植栽などで囲んで人の立ち入りを制限し、野鳥が利用する空間として管理しています。サンクチュアリの林には、大小・高低の変化をつけた水場があり、池のほわりにはカワセミの人工営巣壁が整備されています。葦藪には観察窓があり、サンクチュアリ内の鳥の姿を観察することもできます。



水場 (バードバス)



カワセミの人工営巣壁

【環境省認定 自然共生サイト】



シンジコハゼや水鳥などの希少種が息づく豊かな環境と、ラムサール条約登録湿地「宍道湖」の隣接地における生物多様性保全の取り組みが評価され、2026年環境省より認定を受けました。



地域の自然保護の普及啓発をめざして



穴道湖グリーンパーク

穴道湖グリーンパークは、体験学習型の普及啓発施設として、穴道湖をはじめとしたこの地域の自然や野生動植物を紹介し、ビオトープの機能を持つ園内や多様な湿地環境がある周辺で自然観察会などを開催しています。園内にある野鳥観察舎には普及啓発を担う指導員が常駐しているほか、野生生物研究所施設を併設することで研究員などのスタッフも加わった一体化した運営を行っています。

2019（平成31）年4月には2階建ての野鳥観察舎がリニューアルオープンしました。より穴道湖の展望が広がった窓辺には望遠鏡が備えられ、天候に関係なく野鳥を観察することが可能です。常設の解説パネルやハンズオン展示なども一層充実し、展示コーナーでは様々な生きものや自然を紹介する企画展、季節にあわせたコーナー展示などを見ることができます。



野鳥観察舎

- 【開園日】1996（平成8）年6月6日
- 【所在地】島根県出雲市園町 1664-2
- 【面積】36,084 m²（ビオトープ池を含む）
野鳥観察舎延べ面積：952.58 m²
- 【構造】鉄骨造 一部木造 2階建て
- 【概要】野鳥観察舎、ペンギンミュージアム
人工池、植樹林、芝生広場、駐車場



ペンギングッズ2,000点以上を展示する「ペンギンミュージアム」
2013(平成25)年3月10日併設



1階）学びのフロア

ラムサール条約登録湿地である穴道湖の紹介など、生きものや自然環境に関する展示があり、解説パネルのほかに操作して楽しめるデジタルコンテンツもあります。



2階）体験フロア

望遠鏡が備えられた観察コーナーでは季節の野鳥や、穴道湖の景色が楽しめます。遊びながら生きものへの関心を高めるハンズオン展示、パズルやぬりえなどの体験グッズも備えています。



レクチャールームや展示コーナー

1階には体験プログラム等で利用できる部屋があるほか、2階には可動間仕切りで自由にレイアウトできる展示コーナーがあります。



園内の解説板や樹名板

常設以外にも季節にあわせて置き換えできる解説板など様々なものがあり、散歩しながら生きものや自然について知ることができます。



自然体験活動の場としての機能

園内を活用した自然観察会の開催や、学校などの団体を対象とした体験プログラムを提供しています。展示とリンクさせたワークシートや穴道湖の野鳥を紹介する映像などもあり、プログラムと併用することもできます。

穴道湖グリーンパークとその周辺



調査研究事業

自然を理解する、記録を残し、役立てる

鳥根県内に生息する野生動植物の保護や生息環境を保全するという視点から、生息状況などの調査研究を行っています。鳥類・昆虫類・植物をはじめ、魚類・水生生物などがおもな調査対象です。特に絶滅危惧種や、宍道湖・中海など鳥根県に特徴的な環境に重点を置き、研究員をはじめとする職員が取り組んでいる自主研究はもとより、他機関との共同研究や調査協力も行っています。

調査研究により得られた成果は、論文・学会で報告しています。ホシザキ野生物研究所では年に一度「ホシザキグリーン財団研究報告」を定期発行しています。また、近年では特別号として100ページ前後の調査報告や論文集なども発行しています。このように調査研究の成果を発表することによって多くの人々と研究成果を共有することができ、例えば鳥根県が発行する「しまねレッドデータブック」改訂のための基礎資料や各種環境調査の基本文献としても利用されています。さらに調査研究の成果を広く一般の方にご紹介することを目的として、「ホシザキ野生物研究所研究報告会」を開催しています。



宍道湖グリーンパーク周辺の鳥類調査



尺の内公園での昆虫類調査



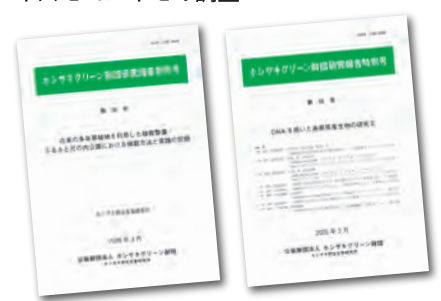
鳥根県だけに自生するユリ科の多年草
イズモコバイモの調査



隠岐での調査で発見された新種の水生甲虫
(サンインヒメツヤドトムシ)



ホシザキグリーン財団研究報告は 2026
(令和7)年度に 29号を発行しました。

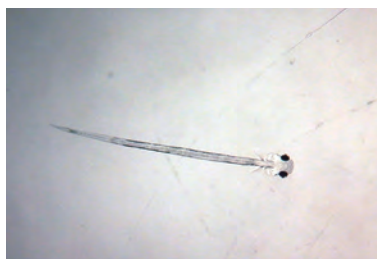


研究報告特別号は2026 (令和7)年度に
35号、36号を発行しました。

環境修復／地域貢献技術開発に関するプロジェクト事業

2012年(平成24年)から、調査研究の一環として環境修復プロジェクトを立ち上げ、アカミミガメなどの外来種の生息調査や駆除、水辺の生態系の修復に関する支援に取り組みました。また、希少生物や個体数の減少が懸念される生物の保護繁殖にも取り組んでいます。なかでも、宍道湖七珍の一つでありながら生息数の減少が懸念されているシラウオについては、累代飼育による繁殖に成功し、管理運営を行う宍道湖自然館に設置した展示水槽において、国内で唯一となるシラウオの周年展示を実現しています。

2024年(令和6年度)からは、地域貢献技術開発に関するプロジェクト事業として、シラウオの飼育規模を陸上養殖レベルまで高める技術開発に取り組んでいます。



シラウオの仔魚
累代飼育に成功、日本で唯一通年展示を実現



ミナミアカヒレタビラ
人工繁殖に成功個体を宍道湖自然館にて展示

地域密着型の魅力ある拠点施設

ホシザキ野生生物研究所

2001（平成13）年4月に開設して以来、財団のオリジナリティを高める地域密着型の研究拠点と位置づけて運営しています。2007（平成19）年には宍道湖グリーンパーク内に施設が併設されました。

略称である「HOWP（ホープ）」は、ホシザキ野生生物研究所の英語表記である「Hoshizaki Institute for Wildlife Protection」の頭文字をつなげたものでニュースレターのタイトルにもなっています。

【所在地】 島根県出雲市園町 1664-2 【竣 工】 2007（平成19）年2月9日

【面 積】 延床 695.98㎡ 【構 造】 鉄骨造1階建て

【施設等】 図書室、標本室、液浸標本室、観察・飼育室、作業室、実習室



実習室：普及啓発の場として活用



図書室：文献、図書等、資料を保管



ホシザキ野生生物研究所外観

ホシザキ野生生物研究所 研究報告会

調査研究の成果を広くご理解いただくことを目的として2013（平成25）年から研究報告会を開催しています。

【これまでの研究発表会より……発表テーマと開催年】



2014年10月

『しまねの草花』に記録された珍品
ラショウモンカズラの再発見



2015年10月

出雲市の砂浜海岸とレッドデータブック
掲載種であるシロチドリ



2019年2月

水生甲虫のユニークな捕食生態
～カイミジンコを食べるゲンゴロウの発見～



2024年2月

ふるさと尺の内公園の自生植物を用いた
屋上緑化の5年間



2024年2月

直接鳥をみて歩かない調査Ⅱ
<自動撮影>



2024年2月

新種の昆虫を記載する：
発見から命名まで



普及啓発事業

地域の自然を知ってもらう、
体験の場を提供する

環境整備や調査研究によって得た科学的な知見に基づいて自然環境の素晴らしさや大切さを観察会や展示、講演、刊行物やホームページなどといった様々な方法で多くの人々に紹介しています。運営する施設での地域の特色を活かした展示や催事、フィールドへ出かけての活動を通じて普及啓発活動を行っています。

自然の仕組みや大切さ、花や鳥や虫がどう暮らしかかわっているのかを、楽しみながら学ぶ機会をつくることで、人と自然の調和について考えるきっかけとなる活動をこれからも続けていきたいと考えています。



調査研究の成果を活かした展示

運営する施設では常設展示のほかにも様々なテーマを設けて企画展、季節の展示等を開催しています。



自然に親しむイベントの開催

冬鳥の渡来日予想や地域の生きものをモチーフにした工作など楽しみながら自然に親しめるイベントを開催しています。



自然観察会の開催

身近な生物や地域の自然環境に親しむプログラムを中心に季節に合わせた自然観察会を開催しています。



自然体験活動の受け入れ

運営する施設を活用し幼稚園や小学校などに地元の自然について学ぶ場を提供しています。



自然観察の講師など

各種依頼を受けて自然観察などの講師としての対応もしています。



講演会の開催

講演会・シンポジウムなどを開催しています。



宍道湖グリーンパーク&ゴビウスラムサール探偵団

ラムサール条約登録湿地である宍道湖や中海について、地元の子供たちに興味関心を持ってもらうことを目的とした体験活動。年間5回程度の体験をふまえて考えをまとめるところまでのプログラムです。財団が運営する宍道湖グリーンパークや島根県立宍道湖自然館ゴビウスでの活動に加え、湖岸などフィールドへ出かけて宍道湖の野鳥観察や川や湖での水生生物の観察などの活動を行いラムサール条約登録湿地について理解を深めています。

ニュースレター、普及啓発資料などの発行

ホシザキグリーン財団ニュースレター「HOWP」やリーフレットの発行を通じた情報発信をしています。宍道湖グリーンパークの野鳥の記録、ふるさと尺の内公園の生きもの観察の手引きになる小冊子なども発行しています。



ホシザキグリーン財団 ニュースレター「HOWP」



自然観察リーフレット



小冊子

施設の運営

環境整備、調査研究を行い、
それを活かした普及啓発を行う施設運営

ホシザキグリーン財団は、人と自然の調和と共存をめざし、地域の自然環境の保全につながることをめざして「ふるさと尺の内公園」と「宍道湖グリーンパーク」を整備しました。そこでは、自然や野生動植物に親しみを感じ、学ぶことができるようにと施設の運営に取り組んでいます。また指定管理者として「島根県立宍道湖自然館ゴビウス」の管理運営もしています。それぞれの施設の特徴を活かし、より多くの皆様に利用していただけるような普及啓発の場としての運営はもちろん、環境整備を通して野生動植物の保護に貢献する場としての管理にも取り組んでいます。また、調査研究の拠点あるいはフィールドとしても活用し、その活動を通して得た知見を広く普及する場となることも施設の目的としています。



宍道湖西岸にあるホシザキ野生生物研究所、宍道湖グリーンパーク、島根県立宍道湖自然館ゴビウス

財団の拠点となる施設には調査研究をはじめとした各種事業の要となる「ホシザキ野生生物研究所」、宍道湖畔に野鳥観察舎を構える体験学習型施設として「宍道湖グリーンパーク」があり、隣接して島根県の汽水・淡水の水生生物を展示する「島根県立宍道湖自然館ゴビウス（指定管理者）」があります。また、両施設をご利用の際に、休憩場所等としてご利用いただける宍道湖公園多目的棟などの便利施設も管理しています。



ふるさと尺の内公園（雲南市 木次町）



宍道湖グリーンパーク



島根県立宍道湖自然館ゴビウス
(指定管理施設)



島根県立宍道湖自然館ゴビウス (指定管理施設)

島根県には日本有数の汽水湖である宍道湖・中海をはじめとした豊かな自然が残され、そこをすみかとしている様々な生物が数多く生息しています。島根県立宍道湖自然館(愛称:ゴビウス)はこれら私たちの身近な環境に生息する生物の展示を通して島根の自然の魅力を発見、再認識する場として2001(平成13)年に島根県が建設した体験学習型水族館です。その設立の趣旨は当財団の設立理念と合致するもので開館当初から管理運営を受託し、現在は指定管理者としてその運営を行っています。

「もっと知ろうふるさとの自然、親しもう水辺の生きもの」をメインテーマに掲げ、社会教育、情報発信、調査研究などといった様々な活動を通して、自然保護や環境教育における地域の拠点となることを目指しています。



島根県の河川や宍道湖・中海に生息する約200種1万点の生きものを展示(写真はゴギ)

【開館日】2001(平成13)年4月21日
 【所在地】島根県出雲市園町1659-5
 【面積】敷地9,477㎡
 建築1,951㎡ 延床2,195㎡
 【構造】鉄筋コンクリート造 2階建
 【水槽】展示水槽58基(水量:278t)
 予備水槽30基(水量:9.8t)
 【展示種数】約200種1万点(生体展示)
 【総水量】287.4t
 (汽水174t、淡水113t)



宍道湖・中海の環境を再現したジオラマ水槽



世界で唯一、シラウオの通年展示を実現



島根県の絶滅が心配される生きものの展示



ワカサギなど希少種の繁殖
 希少生物や個体数の減少が心配される生物の繁殖の取り組み



タガメの累代繁殖
 飼育下での累代繁殖による県内個体の系統保存と展示



ミナミアカヒレタビラの人工繁殖
 環境修復プロジェクトとの連携事業
 ミナミアカヒレタビラの人工繁殖



オニバス展示の試み
 汽水環境の池での絶滅危惧種
 オニバスの展示の試み



生きもの観察会の開催
 楽しみながら生きものに親しむことができるイベントを開催



体験活動の場としての機能
 教育団体等に向けた体験学習や
 インターシップの受け入れ



特別展の開催
 常設展示のほかに、様々なテーマを設けて年3回の特別展を開催



展示解説書、ガイドブックの発行
 展示についてより掘り下げた内容の解説書などを発行

島根県立宍道湖自然館ゴビウス

名称：島根県立宍道湖自然館 愛称：ゴビウス

設置者：島根県（所管：農林水産部水産課）

沿革

2000年11月17日…館の正式名称を「島根県立宍道湖自然館」、愛称を「ゴビウス」とし、マスコットキャラクターを決定

2001年4月21日…開館

2001年7月20日…第1回特別展「ハゼのなかまたち」（～9月5日）

2001年9月5日…高円宮殿下御一家御来館

2002年4月21日…開館1周年記念事業「竹下景子さんと宍道湖を語る環境フォーラム」

（パネリスト：竹下景子氏、木幡修介山陰中央新報社会長、越川敏樹氏、栃本武良館長）

2002年8月30日…博物館相当施設に指定

2002年10月29日…秋篠宮御夫妻御来館

2003年4月21日…マスコットキャラクターの愛称が公募によって「ゴビィ」と決定

2004年6月23日…（社）日本動物園水族館協会「繁殖賞」受賞（イシドジョウ）

2004年7月11日…開館3周年記念講演会「養老博士の少年時代」（講師：養老孟司氏）

2004年8月1日…皇太子殿下御来館

2004年11月3日…斐伊川水系純系種と考えられるヤマメの系統保存協力

2005年4月1日…指定管理者制度の導入

2005年9月5日…開館4周年記念事業「今森光彦 里山を語る」講演会（講師：今森光彦氏、亀工房によるコンサート）

2006年4月21日…開館5周年記念事業「日高のり子さん、西尾理弘出雲市長と自然・子育てを語ろう」（講師：日高のり子氏、西尾理弘出雲市長）

2006年9月2日…開館5周年記念事業「いのちはみんなつながっている」講演会（講師：千石正一氏、亀工房によるコンサート）

2006年10月10日…シラウオの人工ふ化・飼育記録の国内最長記録更新

2007年8月1日…秋篠宮御一家御来館

2007年8月4日…特別展開催記念講演会「タガメのすべて」（講師：市川憲平氏）

2007年9月8日…開館6周年記念講演会「美しい日本の水環境と生きものたち」（講師：内山りゅう氏）

2007年10月2日…（社）日本動物園水族館協会「繁殖賞」受賞（シラウオ）

2008年2月15日…来館者100万人達成

2008年7月8日…（社）日本動物園水族館協会「繁殖賞」受賞（アシシロハゼ）

2009年11月23日…ワークショップ「絵本の世界の魚たち」（講師：村上康成氏）

2010年10月3日…イベント「ギョギョギョ！宍道湖のさかなーさかなクン in ゴビウスー」（講師：さかなクン氏）

2011年3月13日…開館10周年記念式典および感謝デー開催

2011年7月10日…ゴビウスdeアート第2弾！お絵かきワークショップ絵本作家村上康成先生と一緒にみんなで描こう！川の生きもの

2015年3月21日…館内に新コーナー「あそびっ湖まなびっ湖ひろば」新設

2016年4月21日…開館15周年記念事業セレモニー「ゴビウス開館15周年！」

2017年2月25日…村上康成トークショー「ヤマメ・ゴギいのちのはなし」、ワークショップ「川にくらすいのちをアートしちゃおう！」、サイン会

2016年10月17日…来館者200万人達成

2019年1月1日…シラウオ水槽を新設

2020年3月11日…エントランスホール 宍道湖プロジェクションマッピング立体模型を新設

2025年3月23日…来館者300万人達成



2001年4月21日オープニングセレモニー



2015年3月21日「あそびっ湖まなびっ湖ひろば」新設



2019年1月1日「シラウオ水槽」新設



2025年3月23日「来館者300万人」達成

■動物取扱業の表記

名称/公益財団法人ホシザキグリーン財団 事業所の名称/島根県立宍道湖自然館 動物取扱業の種別/展示 登録番号/第073102040号
登録年月日/2007年5月17日 有効期限の末日/2027年5月16日 動物取扱責任者/中野浩史